

資料番号	5
------	---

令和7年5月19日
課名 農林水産局農業技術課
担当者 課長 月岡
内線 3556

県立農業技術大学校の学生確保及び就農状況について

1 要旨・目的

県立農業技術大学校（以下「大学校」という。）における令和7年度の学生の確保状況と令和6年度卒業生の就農状況を取りまとめたので報告する。

2 現状・背景

農業関連高校との連携等による学生確保に向けた募集活動を行うとともに、在学生については、農業法人へのインターンシップや模擬経営実習等を実施し、次世代を担う農業者の育成に取り組んでいる。

3 概要

(1) 入学生の推移（令和5年度～令和7年度実績）

（単位：人）

学生内訳	年度別入学生数の推移			(参考) 令和7年度在校生内訳		
	R 5	R 6	R 7			
一学年定員 (a)	40			1年生	2年生	合計
入試受験者数	32	32	31			
入学生数 (b)	25	29	20	20	29	49
農業関連高校出身	10	13	8	8	13	21
農業関連高校以外高校出身	12	13	7	7	13	20
一般社会人等	3	3	5	5	3	8
(うち、県外出身)	(7)	(1)	(0)			
入学定員充足率 (%) (b/a)	62.5	72.5	50.0			
非農家率 (%)	66.0	55.2	85.0			

(2) 卒業生の進路（令和4年度～令和6年度実績）

（単位：人）

卒業年度	R 4	R 5	R 6
卒業生数 (a)	25	15	23
就農小計 (b)	20	12	12
自営（就農に向けた研修も含む）	5	1	1
農業法人等	15	11	11
農業関連就職（JA、農機具会社等）	3	2	5
進学	0	1	2
一般企業就職	2	0	4
就農率 (%) (b/a)	80.0	80.0	52.2

4 課題と今後の対応

(1) 入学生の確保

令和7年度の入学生については、入試受験者数は昨年度並に確保できたが、進路の多様化により、3月に追加募集を行ったものの、20名（入学定員充足率50.0%）にとどまったことから、より多くの入試受験者数を確保する必要がある。

入試受験者数の確保に向け、ホームページやSNSを積極的に活用して大学校の魅力を発信する。また、入試出願率が高い1回目のオープンキャンパス（6月）参加者を増やすため、昨年度訪問した高校に対してメール等で開催周知を早期に行う。さらに、今後の少子化を考慮し、高校以外の大学校PR先を検討する。

(2) 卒業生の就農率向上

令和6年度卒業生の就農率は、52.2%と昨年に比べ下落した。この要因として、他業種含めた有効求人倍率が上昇する中、進路選択が多様化しただけでなく、雇用環境面で企業への就職や進学が多くなったことが挙げられる。

就農率向上に向け、引き続き、農業法人等雇用就農ガイダンスの参加や先進経営体実習等の機会を活用し、大学校生とのマッチングによる雇用就農等を推進する。さらに、今後、学生の雇用就農先の選択肢が広がるよう就業規則等労働環境面を整えた企業経営体の育成を行う。

5 その他

入学生確保に向け、昨年度ホームページ（<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshima-noudai/>）をリニューアルし、大学校の授業の様子等の情報発信を積極的に行っている中、慶應義塾大学 SFC 研究所が主催する「全国農業高校・農業大学校デジタルコンテスト」が令和7年3月25日に開催され、ホームページ部門で「農林水産省経営局長賞」（2位：全国46農業大学校の中では最優秀）に選出された。